

第2章 実態調査の結果概要

2-1 住民アンケート調査結果の概要

(1) 鉄道について

鉄道を日常的に利用しているのは約24%であり、10歳代、20歳代に多く、利用駅は最寄りの駅が多くなっています。

鉄道を利用していない人のうち、鉄道駅までのバスが便利になったら利用するという人が約35%もあります。鉄道利用促進のためには、バスの鉄道駅接続が重要な要素となります。

(2) バス利用について

①利用状況

バスを日常的に利用している人は約9%ですが、時々あるいは天候の悪いとき等に利用する人を含めると約43%にもなり、利用率はかなり高いといえます。ただし、路線バスが運行している真美ヶ丘地区の利用率の高さに比べ、広陵元気号しか運行していない東・北地区では利用する人は12~24%と少なくなっています。

②有料化

バスを利用している人のうち、広陵元気号が有料になっても利用する人は、利用しない人の1.7倍となっており、有料化に対して一定の理解は得られていると思われます。

③利用促進

バスの利用促進のためには、運行本数の増便、運賃の低廉化、バス停までの距離を改善する必要があります。

(3) タクシー利用について

日常的あるいはときどき利用する人は約19%で、主に、大和高田駅、五位堂駅、町内の診療所・病院へのアクセスとして利用されています。

70歳以上では利用率が30%程度と高く、高齢者の重要な交通手段になっています。

(4) 公共交通を利用したい行き先について

鉄道駅（大和高田駅、五位堂駅、箸尾駅）、公共施設（さわやかホール、中央公民館、図書館）、病院、スーパーとなっています。病院は、町内の診療所・病院が多く、次いで国保中央病院となっています。

(5) デマンド交通について

デマンド交通の利用意向は約15%で、70歳以上の高齢者では約20%程度とやや高くなりますが、利用しない人が全体で約46%、高齢者でもほぼ同様であり、利用意向はあまり高くないといえます。

(6) 広陵元気号について

広陵元気号が運行されていることは、約83%の人が知っています。利用したことがあるのは約8%ですが、70歳以上になると約15%程度と高くなり、高齢者の重要な交通手段になっています。

利用したことがない理由で多いのは、「行きたい場所に運行していない」「時間がかかる」「行きたい時間に運行がない」であり、利用促進のためには、ルート、運行本数の改善が必要です。また、「バスの乗降がづらい」という回答も多く、バリアフリーへの配慮が必

要です。

(7) 今後の公共交通について

公共交通の運行を維持あるいは充実すべきという意見は約 63%、サービスの縮小・廃止は約 15%であり、今後も維持・充実することが期待されています。

2-2 広陵元気号利用者アンケート調査結果の概要

(1) 利用者特性と利用目的

女性の高齢者の利用が多く（60 歳以上が約 64%）なっています。

(2) 利用目的と行き先

10 歳代・20 歳代では通学・遊び・公共施設利用、40 歳以上では買い物が多くなっています。

行き先で最も多いのは、大和高田駅（約 50%）、エコール・マミ（約 22%）となっています。

(3) 運行サービスの評価

運行本数、行き先は便利あるいは普通という人が半数以上を占めており、一定程度満足されていますが、運行本数については、少ないという人が約 33%あり、10 時台を中心に増便要望があります。

(4) 有料化について

有料になっても利用したい人が約 62%、有料になったら利用しない人は約 22%であり、有料化については一定の理解が得られているといえます。その場合の料金は、ほぼ全員が 100 円以上であり、そのうち 100 円が最も多く（回答者の約 65%）、ついで 200 円となっています。